RYLA

きりひらこう 自分の未来を! とびだそう 仲間たちと!

～ロータリー青少年指導者養成プログラム～

REPORT 2013

5月3日（金・祝）、5月4日（土・祝）、5月5日（日・祝）

開催場所：六甲山 YMCA
主　　宰：2012-2013 年度 国際ロータリー第2660地区ガバナー　高島 凱夫
主　　管：2012-2013 年度 国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会
ホストクラブ：千里メイプルロータリークラブ　〒565-0826 吹田市千里万博公園1-5 ホテル阪急エキスポパーク306号室　TEL.06-6816-7077

RYLA
'13
Spring

[2013年春のライラ テーマ]

きりひらこう 自分の未来を! とびだそう 仲間たちと!

～ロータリー青少年指導者養成プログラム～
Rotary Youth Leadership Awards

目　次

プログラム …… 2
開講式 …… 3
　開講宣言 …… 4
　ガバナー挨拶 …… 5
基調講演 …… 6
ロータリーとは …… 12
グループレポート …… 15
閉講式 …… 22
　ガバナーノミニー挨拶 …… 23
　委員長講評 …… 24
　閉講の辞 …… 26
フォトレポート …… 27
クラブ別登録会員数・受講者数 …… 30
収支決算報告 …… 31

プログラム

第1日目（5月3日）

13:00	JR六甲道駅集合
14:00	受付開始
15:00	開講式
15:30	基調講演 "歴史と冒険のｼﾝｸﾛﾆｼﾃｨｰ" ～「天の原」歌をめぐって～ 講師　辻原　登　様
17:00	総合案内
18:00	夕食
19:00	実習1 "チームビルディング" "アイスブレーキング"
21:30	入浴・自由時間
23:30	消灯・就寝

第2日目（5月4日）

7:00	起床
7:30	朝礼・体操
8:00	朝食
9:00	実習2 "What's my communication style?"
10:30	実習3 "情報伝達ゲーム"
12:30	昼食
13:30	実習4 "アウトドア アクティビティ"
18:00	夕食
19:00	実習5 "ロータリークラブとは"
19:30	実習6 "ロータリーパパとの座談会"
21:30	入浴・自由時間
23:30	消灯・就寝

第3日目（5月5日）

7:00	起床
7:30	朝礼・体操
8:00	朝食
9:30	実習7 "グループ発表準備"
12:00	昼食
13:00	実習8 "グループ発表"
15:15	閉講式
16:00	解散

開講式

会場：**六甲山YMCA　大ホール**

司会：国際ロータリー第2660地区 千里メイプルロータリー・クラブ **藤田　芳浩**

■ 開会点鐘　国際ロータリー第2660地区 千里メイプルロータリー・クラブ　会長 **水本　徹**

■ 国歌斉唱 "君が代"

■ ロータリーソング斉唱 "奉仕の理想"

■ 開講宣言　国際ロータリー第2660地区 千里メイプルロータリー・クラブ 2012-13年度　春のライラ実行委員長 **黒川　彰夫**

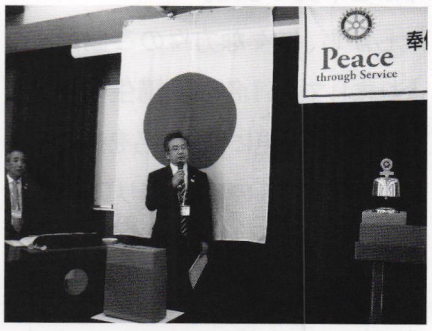
■ 来賓、参加ロータリアン紹介　国際ロータリー第2660地区 地区青少年活動委員会　委員長 **植田　昌克**

■ 主宰者挨拶　国際ロータリー第2660地区 ガバナー **高島　凱夫**

■ 閉会点鐘　国際ロータリー第2660地区 千里メイプルロータリー・クラブ　会長 **水本　徹**

開講式

点鐘



国歌斉唱

開講宣言

国際ロータリー第2660地区
千里メイプルRC
春のRYLA 実行委員長
黒川　彰夫

「2013年の春のライラ」の開講宣言に先立ちまして、一言ご挨拶と御礼を申し上げます。

今年は4月27日より大型連休に入りまして、まさに10連休の方々もおられるようですが、その後半の大切なお休みにも関わりませず、予想を遥かに超える多くの方々にご参集頂きまして、担当者一同、心より感謝いたしております。

本日のこの開講式を向かえるまでは、不安な要因がいっぱいありました。連休の後半でしかも交通の便の悪い場所でのライラ。例年にない寒暖の激しい不安定な天候など、このような時にライラに本当に多くの人々がおいで下さるのかと不安でした。

しかし、様々な方々のご協力によりまして、51名の受講生の申し込みを頂き、更には70名を超える各クラブからのロータリアンの参加申込みを頂きました。

ここに参加して下さった多くの青少年の諸君、そして、各クラブからご参加頂きましたロータリアンの皆様方、合計150名を超える皆様を前に、RI第2660地区2013年春のライラ開講式を開会できますことを、ホストクラブ一同、心から御礼をを申し上げる次第です。

今回のライラ開催にあたり、2660地区ガバナーをはじめ、地区青少年活動委員会、地区ローターアクト委員会、地区ローターアクトクラブ、IM2組の各ロータリークラブ、そして、特に昨年春のライラを開催されました箕面ロータリークラブ、チームライラなど、大変沢山の関係者にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。特に、実施にあたっての具体的なアドバイスを頂きました箕面ロータリークラブ様と、私たちに直接力を貸して下さるチームライラの皆様には心より感謝致しております。

また、2660地区の各クラブからは516名もの登録を頂いたことをホストクラブとしては忘れることはできません。

今回のライラのホストを務めます千里メイプルロータリークラブは、会員数22名という極めて小さなクラブですが、全員力を合わせて、ここまでたどり着きました。

しかし、本番はこれからであります。

3日間の日程が終了した時、今回参加してくれた若者たちの目が輝き、人間力が発揮され、そして、社会に貢献できる指導者としての資質を身に付けようとする「きっかけ」となっていれば幸いと期待しております。

もうすぐ、芥川賞作家の辻原登氏の基調講演からライラのプログラムが始まります。皆様、大いに楽しんで下さい。

それでは、ここに「2013年春のライラ」の開講を宣言いたします。ありがとうございました。

ガバナー挨拶

国際ロータリー第2660地区
ガバナー　**高島　凱夫**

本年度の「春のRYLA(初級)」が、開催されるに当たりましてご参加いただきました皆様方、心から歓迎申し上げます。お世話をいただきます千里メイプルロータリークラブ会長 水本 徹様、RYLA実行委員長 黒川 彰夫様はじめ会員の皆様、地区青少年活動委員会 委員長 植田 昌克様、地区委員の皆様、チームライラの皆様方の準備・運営に感謝申し上げます。

また、ご講演を賜ります辻原登様にはお忙しい中、ゴールデンウィークの中ご来駕賜り、心から御礼申し上げます。

今年度の「春のRLYA」は「きりひらこう自分の未来を！ とびだそう仲間たちと！」をテーマに開催されます。

ライラとは、既にご承知の通り、若い世代の皆様が持つリーダーシップの可能性を伸ばすことに加えて、善良な市民としての資質や個人の能力を伸ばすことを目的に設けられた、国際ロータリーのプログラムです。今回参加された皆様におかれましてはその点を充分にご理解いただき、3日間の研修を充分にされ、RYLAが終わるころには、少しでもご自分に成果がご習得できますことを願ってやみません。

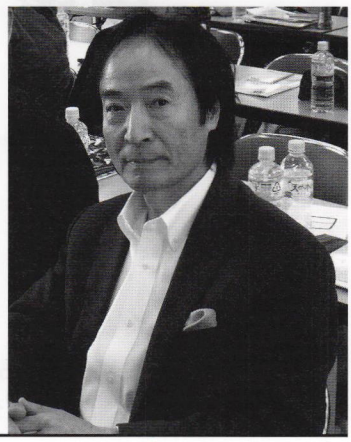
近年の社会の変化・多様化のため、皆様方を取り巻く状況も大きく変化しています。脱法ハーブなどを含めた薬依存、喫煙、飲酒、性感染症・HIV／AIDSなどの低年齢化が大きな社会問題となっています。また「突然切れる」「学級崩壊」「ネット依存症」など心の病をもつ青少年が増加しています。

平和な社会・未来を築いていく青少年、未来の指導者を育んでいくことは、他の奉仕活動とともにロータリーの、ロータリー活動の大きな目的です。私は、「心も体も健全な」青少年、未来の指導者で無くてはならないとつねづね申し上げています。皆様方、是非「心も体も健全な未来の良き指導者」として、ご成長下さいますようお願い申しあげます。

加えて、ライラで学んだことを存分に発揮し、様々な分野で活躍できる存在になられますことを期待しております。

皆様にとって、実り多い「春のRYLA」になりますように願っています。

基調講演



歴史と冒険のシンクロニシティー
～「天の原」歌をめぐって ～

作家：辻原　登

「2013春のライラ」では平成25年5月3日の初日は辻原登氏による基調講演から始まりました。同氏は、芥川賞を初め数々の文学賞を授賞。2012年には紫綬褒章を授賞され、東海大学などでも教鞭を取り学生達にも大変な人気のある方です。

今回の講演は、辻原登氏が『翔べ麒麟』という作品のなかで書れた安倍仲麻呂とともに遣唐使として渡った井真成という留学生の墓誌の発見を題材に、日本語のルーツと、千年以上日本人の心にある「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出し月かも」に隠された秘密を解き明かすお話でした。

【千年の時を越えたシンクロ】

「シンクロニシティー」という言葉を辞書で引きますと、だいたい「共時性」というふうに出ています。音楽に動きを合わせて複数の人が同時に踊ったり動いたりする、シンクロナイズドスイミングというスポーツがあります。日常的には「シンクロが起きる」という言葉の使い方をすると思います。

シンクロの典型的な出来事は恋愛だと思います。だいたい私たちは他人の心はわかりません。他人が何を考えているか、お父さんでもお母さんでも兄弟でも、どんなに近い人でも他人は他人ですから心は見えません。だいたいこうだろうと思いながら、我々はつき合っているわけです。そのこうだろうと思う一致点が多ければ多いほど親密度が増すわけですが、その典型的な場所は家庭だと思います。それがいったん外に出て、見知らぬ人たちと交流を始めなければいけないときは、相手が何を考えているか全くわからない。恋というのはまさにそういうときに起きます。相手の人を好きになっても、相手はどう考えているのか全くわからない。想像力を働かせながら相手に接近していく。相手もこちら側の動きに応じて近づいてくる。そして二人が思いを寄せ合っていることがわかる。これがシンクロです。

目に見える動きで合わせるシンクロナイズドスイミングのようなものと、それから全く目に見えない心の中の動きがどこかで他者の心と一致する、恋が一番その典型だと言いましたが、これもシンクロだと思います。想像力を働かせる分野でのシンクロが、ジャンルとしては文学です。

シンクロは時や場所を同じくして起きることばかりではありません。千年前の人たちや出来事と現在がシンクロするということもあります。

2004年10月11日（月）「朝日新聞」朝刊の一面トップの記事に「遣唐使の墓誌発見」とあります。この墓誌は内容も重要ですが、この文章の翻訳は共同通信の記者が訳したものですが、そのままでも見事な格調高い日本文です。大事なのはこのことなのです。

じつは、われわれの使っている

日本語は漢語によって形成されたものです。現代人はそれを忘れています。外国語という漢語を読み下すことによって、日本語にしていくわけですが、考えてみるとこれはとても玄妙なことです。およそ1700年前には、日本には文字がありませんでした。漢語が入って来ますが、当時の人はそれが文字だとは気づきません。気づきようもなかったのです。なぜなら文字がなかったからです。同時に読む、書くというシステムすら分からなかったのです。われわれの祖先は、文字とは何かを知るために、漢語を読み書きすることから始めました。仏典などもそうです。初めはみんな漢語で読み書きした。ですから聖徳太子も漢語で条文を読み、十七条の憲法をつくったわけです。しかし、倭（やまと）の言葉で会話することはまだまだできません。そこで、彼らは漢語のように会話できる言葉を何とかして手に入れたいと真剣に願うようになるのです。

ところで、当時日本に入ってきた文字システムが英語だったとします。たとえば「スメラミコトガオカクレニナリマシタ」という事実があったとします。この事実を英語でしか書けないとしたら、「The Emperor has died.」となります。が、そう書くことですでに英語でなくなっているのです。無理にそれを「スメラミコトガオカレニナリマシタ」と読ませているからです。これが日本語のシステムの基本です。漢語と英語は同じ文法システムです。主語がきて、動詞がきて、目的語がくる。日本語は、主語、目的語、動詞の順ですから、文法システムが違います。ということは、精神世界や考え方もかなり違うということになります。しかし、この考え方が微妙に違う漢語というシステムを使って何とか自分たちの言葉をつくろう、という事業が始まったのです。これには渡来人も協力しました。

先ほどの「スメラミコト…」を漢語にすると「皇帝己経駕死了（崩御了）」となります。しかし、こう書いて「ホワン・ディー・イー・ジン・ジア・スーラ」とは読ませない。いずれにしても、外国語を使って書くシステムをつくるには、気の遠くなるほどの知的エネルギーが結集されたわけです。こうして我々の祖先、先輩たちは書くシステムを発明していくのです。

漢字というのは一字一音、意味を持っています。「雪」という漢字は「セツ」、これは「音」です。それともう一つ「意味」を持っています。つまり漢字は音と意味を兼ね備えていることを知るわけです。そして、まず音を利用する。音を利用して何を始めるかというと、漢字の音を借りて地名を表記していきます。地名の音は元々あるわけですから、それに漢字の音をあてはめる。信濃国はシナの木がたくさんある地域のことを「シナノクニ」と言いました。播磨は「ハンマ」、何か弓のような形の砂浜のことを「ハンマ」と言ったのです。古き都奈良なんて言いますが、この奈良という字には何の意味もありません。奈良というのは「平かにならす」という意味です。非常に豊かで平らかな場所を「ナラ」と言っていました。それを文字で表記しようとしたわけです。

このようにまず第一歩は地名に漢字を当てていく。そして今度は、漢字にはもう一つ、意味があることを知ります。冬に曇り空から舞い降りてくる白く冷たい結晶を、渡来人たちは「セツ」と呼び、かつ「雪」という字を書いている。その空から降りてくる冷たい白い結晶を、大和の人たちは「ゆき」と呼んでいた。そうか、この「雪」という字は「ゆき」という意味なんだということがわかります。この漢字が大和の人たちが表現している「ゆき」と同じ意味を持っていることを知ります。そこで『雪』という漢字を「ゆき」と読む。訓読みです。音読みと訓読みがこうして始められたわけです。

こうして、スーパーコンピュータを何百台使ってもできないシステムをつくりあげるわけです。まさに偉大な発明で大事業です。我々の祖先は英知を結集して、この大事業を成し遂げたのです。

「古事記」と万葉仮名の誕生

ここで、有名な杜甫の五言律詩「春望」を漢語で読んでみます。「國破山河在…」ですが、皆さんは「国破れて山河あり」と日本語で読み下すことができます。また、これも有名な「春暁」という詩があります。「春眠不覚暁…」ですが、これも皆さんは「春眠暁を覚えず」と読み下すことができます。しかし、この詩は漢語なのです。音を借りることから始まって、文字のなかった日本人が日本語を書くシステムを発明したからこそ、われわれはこのように読み下すことができるのです。

こうして最初の書物が、七一二年に出来上がりました。それが「古事記」です。壬申の乱後、それまで口頭で伝えてきた歴史を、きちんとした書物で伝えていくべきだという動きが出てきました。しかし、書物をつくるには文字が必要です。が、漢文しかありません。とりあえず、漢文で書くことから始めます。そして、それまでの言い伝えを覚えるためのエリート集団を形成します。そこで、彼らの覚えたものをいちいち書き留める。ですから大変な作業です。編纂には20年から30年を要しました。「古事記上巻」の序文がありますが、これは純粋な漢文です。これを漢文では読みません。読み下すわけです。最初は純粋な漢文ですが、次第に変体漢文になっていきます。つまり日本語化した漢文です。

日本は和歌（うた）の国です。和歌をどのように表記するのか。漢字で書き取るしかないわけです。そこで、漢字の音だけを借りて表記しようとしたのが、万葉仮名です。それをもっと簡単に速く書けるようにしようとして生まれたのが、ひらがなとカタカナです。

こうして769年にわが国最古の和歌集である「万葉集」が完成します。それから、わずか130年後には女性が世界最高峰の長編小説である「源氏物語」を完成させます。

若き遣唐留学生・阿倍仲麻呂

このような知的冒険の渦巻きの中心にいたのが、遣唐使で中国に派遣された青年たちです。遣唐使の第一回は630年、最後が894年です。この260年位の間に20回派遣されています。ただし帰ったのは16回です。向こうで死んだ人もいれば、途中遭難その他で沢山の人が死んでいます。最後の20回目の遣唐大使は菅原道真でしたが、道真の建議によって廃止されます。遣唐使を派遣するには、国家予算の二年から三年分の費用がかかったと言われています。遣唐使の最大の目的は先進的な技術や情報の収集、すなわちそれらが記されている書物を持ち帰ることでした。道真にしてみれば莫大な費用もかかるし、「もう日本語は自分たちで書ける」という自信があったのかもしれません。

第9回（717年）の遣唐使は、最も規模が大きく乗組員の総勢が557人、船4隻という最大規模の遣唐使節団です。そのうち200人ぐらいは船を漕ぐ水夫です。大使、副使、軍師、占い師、医者、通訳、僧侶、船大工をはじめたく

さんの人を乗せましたが、そのなかに18歳の阿倍仲麻呂や21歳の吉備真備、そのほか大伴古麻呂（大伴家持の甥）や僧・玄昉もいました。若い留学生のなかには井真成もいたはずです。十七歳から十九歳だったでしょう。

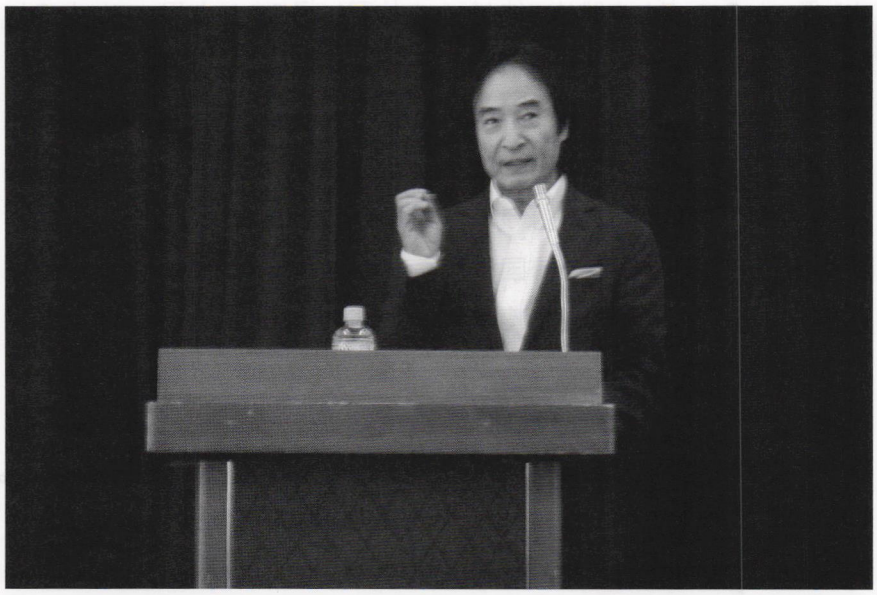
遣唐留学生たちがいつ帰ってくるかというと、次一の遣唐使が来るまで待つんです。次の第10回の遣唐使の帰国（734年）のときに、吉備真備や大伴古麻呂や僧・玄昉らの留学生たちは一緒に帰りました。だが阿倍仲麻呂は玄宗皇帝に帰国を許されませんでした。というのはすごく優秀だったからです。二十二歳で外国人としては珍しく科挙試験に合格しています。そして731年には左補闕（さほけつ）、今でいう大蔵省の会計課長クラスあたりの超秀才エリート役人に抜擢されます。そしてもう一人、そこに井真成もいましたが、一緒に帰れませんでした。なぜなら731年にはもう彼は亡くなっていたからです。しかし、我々がそのことを知ったのは2004年です。1300年かけて彼は蘇ってきたのです。墓誌には大変優秀だったと記されています。おそらく安倍仲麻呂と同じように唐政府に仕えていたのではないかと推測できます。

第12回の遣唐使は752年です。総勢230人あまり、四隻の船。大使は藤原清河、藤原仲麻呂の叔父にあたります。つまり超大物大使です。副使は何と大伴古麻呂と吉備真備です。主たる目的は阿倍仲麻呂を連れ帰ることでした。もう一つは鑑真和尚を連れて帰ることでした。当時、鑑真和上はおそらく中国で二番目か三番目に偉いお坊さんでした。さらに三つ目は私独自の推測ですが、当時日本は新羅と戦争をしようとしていました。唐に手出しをしないための秘密裡の交渉を阿倍仲麻呂に依頼する目的もあったのではないかと推理しています。

阿倍仲麻呂は中国名が晁衡（ちょうこう）。玄宗皇帝は阿倍仲麻呂の帰還を許可しました。ただし一時帰国という許可です。阿倍仲麻呂の当時の役職は国会図書館長で、書物（情報）に関する重要な役割を担っていました。情報を司るいわばCIA長官のような立場だったからです。しかし阿倍仲麻呂はこのときも帰れませんでした。

4隻の第1船にはいちばん偉い人が乗るのですが、大使の藤原清河と阿倍仲麻呂が乗っていました。第2船と3船にはそれぞれ吉備真備や鑑真和上らが乗っていました。この第1船が沖縄まで来て座礁して、ベトナムに流されます。2、3、4船はみな日本に帰りましたが、この第1船だけが日本に帰れませんでした。鑑真和上はこのとき日本に来たのです。そして唐招提寺をつくります。

これは非常に記念すべき帰還ですが、阿倍仲麻呂と藤原清河は日本に帰ることができませんでした。藤原清河はそのまま長安に戻り、そこで結婚して子供ができますが、そのまま向こうで亡くなります。阿倍仲麻呂も勿論そうです。



「天の原」は井真成への鎮魂歌

ちょっと話を戻しますが、このときの出発は明州です。阿倍仲麻呂が明州に来て詠んだとされる歌が「古今和歌集」(巻第九)です。醍醐天皇の命で編んだ勅撰和歌集(913年頃成立)ですが、この和歌集の巻第九「羇旅歌(きりょのうた)」の冒頭がこの歌です。

「天の原ふりさけみれば春日なる
　　三笠の山に出でし月かも」

この歌は、「かつて歌の作者仲麻呂を政府から留学生として唐土に派遣したところが、長年を経ても彼は帰朝できなかった。わが国からさらに使節が派遣され、到着した時に、一緒に帰ってこようとして出発する時に、明州という所の海岸で、かの国の人々が送別会を開いてくれた。その時、夜になって月が感慨を深めるかのようにさし登ったので、それを眺めて彼が詠んだ歌であると語り伝えられている」。

しかし、どうして『万葉集』ではなく「古今和歌集」なのでしょうか。吉備真備、大伴古麻呂の帰国は754年です。このとき一船が座礁して阿倍仲麻呂は帰れませんでした。吉備真備や大伴古麻呂、鑑真は奈良に帰り着いています。「万葉集」の編纂終了は769年。時間的には十分間に合ったはずです。たとえ阿倍仲麻呂が沖縄で座礁して帰れなかったとしても、明州でみんな一緒に詠み、阿倍仲麻呂がこの「天の原」の歌を詠んだことを知っているし覚えています。帰ったのが754年ですから、15年の余裕があります。しかも編纂の責任者は古麻呂の叔父の大伴家持です。

「天の原」の歌はのちに藤原定家が『小倉百人一首』に選んだほどの名歌です。どうして「万葉集」に載せていないのか。一つ理由があります。大伴古麻呂は帰国してすぐ、藤原仲麻呂打倒の橘奈良麻呂の乱の首謀者として加わりますが、逮捕され拷問ののち処刑されます。だから叔父の大伴家持に伝える間がなかった、というふうにも想像できます。

とにかく「天の原」の歌は、紀友則や紀貫之によって「古今和歌集」に収録されることになりました。160年後です。そしてこの歌は、故国に帰りたいと思っていたのに帰れなかった阿倍仲麻呂という人物の、国を思う心を歌った悲しい歌、望郷の歌として千年以上読み継がれてきました。

しかしよく考えてみると、阿倍仲麻呂が明州でこれを詠んだときは、これから懐かしい祖国へ帰れるんだと、むしろ期待に胸を弾ませていたのではないでしょうか。まだ座礁するなんて知らないわけです。やっと帰れる。このとき50数歳です。そうするとこの歌はどうでしょう。もっとわくわくする気持ちで詠んだ歌ではないかというふうに、読みかえることができます。

私の「翔べ麒麟」という小説は14、5年前に「読売新聞」に連載した小説で、唐での阿倍仲麻呂の活躍を面白く描いたものです。その序文に、この和歌が「しらべはのびのびしていて、どこかしらおおらかで、言葉ひとつひとつにうるおいがあり、悲しみというよりも、胸ふくらむようなあこがれが伝わってきはしないだろうか。恋の気配さえある…」という一節があります。さて、私のこの小説も千数百年前にできた漢字、仮名文字の文章そのものです。当時とまったく変わっていません。こんな国語は世界中のどこにもありません。それは、今から千数百年前にこのシステムをつくった先人たちのおかげです。私が小説を書けるのもこの人たちの気の遠くなるような努力の賜物なのです。

今の中国の人たちは、千年前の漢文なんてなかなか読めません。でも我々はちょっと勉強すれば『源氏物語』を読むことができます。「徒然草」も「枕草子」も読めます。私が小説を書くことができるのは、いままでお話ししたような彼らの知的冒険のおかげにほかなりません。

この小説を連載している時、私は井真成という人物の存在を知りませんでした。私ばかりか日本人の誰もが知らなかったのです。井真成は阿倍仲麻呂の親友でした。とすると、仲麻呂は明州の海岸で「天の原」の和歌を詠んだときに、日本へ帰れると思うと同時に、36歳で死んだ井真成のことを脳裏に思い浮かべたはずです。そう考えると、墓誌に刻まれた「死は自然の理だが、日本の人々も悲しんでいるだろう。遺骨は異国に埋葬するが、魂は故郷に帰ることを願う」という文章が、もっと深い意味をもつようになってきます。

当時長安には千人以上の留学生がいたそうですが、留学生や若い外国人にこのような立派な墓誌を建てた例はないそうです。だれが、このような手厚い弔いを皇帝にお願いできるか。阿倍仲麻呂はこのあと儀王友の地位についています。儀王とは玄宗が最もかわいがっていた皇太子で、その最も近い相談役という地位に若い阿倍仲麻呂を抜擢しています。

このすばらしい銘文の起草者は一体だれか。阿倍仲麻呂は文人としても向こうで名を馳せていました。李白や王維の友人でもあります。阿倍仲麻呂は玄宗皇帝に、井真成のために何とかきちんとした弔いと墓誌をつくってやりたいとお願いしたとします。もし私が玄宗皇帝ならこう言うでしょう。「晁衡、おまえが起草せよ」と。

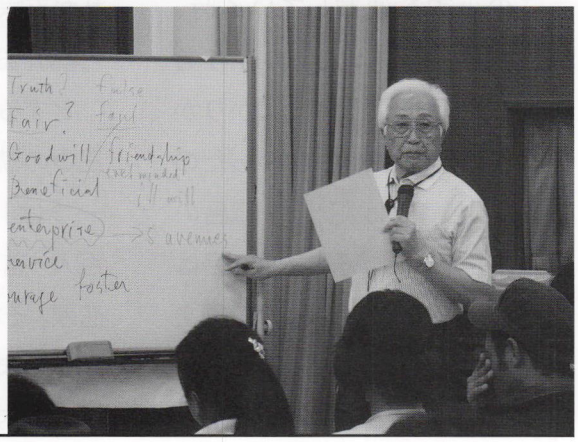
とするとこの「天の原」の歌は、三つの読みが可能になります。一つは1200年間ずっと「小倉百人一首」で読んできた望郷の歌、悲歌。それから二番目には、故国に帰ってまたがんばろうと希望に胸をはずませた阿倍仲麻呂の踊るような気持ちを詠んだ歌。そして2004年にこの墓誌が現れることによって、井真成が1300年ぶりに突然、我々の世界に登場した。

そうするとどうでしょうか。この歌は、友を偲ぶ歌。友情の鎮魂歌、レクイエムとして読むことも可能になったわけです。こうして歴史的事実の新たな発見は、「天の原」の歌をより味わい深く、我々を勇気づける響きを奏でて見せてくれるのです。

※本稿は、辻原登氏のご講演をもとに本誌編集部にて要約させていただきました。

文責：千里メイプルロータリー・クラブ
黒川 彰夫

ロータリーとは



国際ロータリー第2660地区
千里メイプルロータリー・クラブ
池田　進

どのような集団でもそれが組織体として機能するためには必ずリーダーとフォロワーの役割分担があります。それがうまくかみ合って動くようにはたらかせる力がリーダーシップです。ロータリーという組織体も同じです。この時間は、そのリーダーシップをロータリーではどう考えているかをお話ししてそれについて知っていただき、皆さんとしてはどう考えるのかに思いを巡らしていただくのが目的です。

ロータリーの活動の基本単位は毎週1回1時間の例会です。ロータリーのシンボルマークは24枚の歯がある歯車ですから、その歯が噛み合って毎週1コマが進み、1年で2回転するというイメージを画いてくださって結構です。そして1年でリーダーとフォロワーの役目が入れ替わって次の1年が始まるのです。その意味では、メンバーの1人1人が歯車で、リーダーとフォロワーが入れ替わりながら1年に1コマずつ進んでいくとイメージしてくださっても結構です。大事なことは、ロータリーを象徴するその歯車を動かしている力の原理は何かということです。まずそれについてお話ししたいと思います。

ロータリーのメンバーは皆ロータリーの運用のためのマニュアル『手続要覧』(Manual of Procedure:A Reference Manual of Rotary Leaders)を持っています。そこに「ロータリーの目的」(The Object of Rotary)が明示されています。それによると、奉仕(service)という理念(ideal)を息づかせ育てて、それを、メンバーが携わっているそれぞれの事業の基礎に据えよ、というのがロータリーの唯一の目的なのです。ですから“奉仕”の実践がロータリーのキイワードになるのです。それがロータリーの組織を動かしている力の原理なのです。

ところがこの“奉仕”という日本語がなかなか解りにくいのです。皆さん奉仕というと何を思い付かれます？・・ボランティア？・・勤労奉仕？・・もしかして年末大奉仕？。ロータリーでいう“奉仕”はそうではありません。もともとマニュアルにある“service”という語は“奉仕”としか訳しようがなくて、それをそのまま使わなければしようがなかったから、解りにくくても仕方がないのです。なぜでしょうか。それはservice本来の

語感に影響する日常生活の文化的背景が日本と欧米とでは違うからです。ご存じのように欧米ではserviceは教会の礼拝のことで、神に仕えることです。そこがもとにあって、勤める；奉職する；奉仕するということばの感覚が出てきます。ロータリーの目的の“奉仕”とは、だから、職業生活における高度の倫理的規範を意味します。

私たちが日ごろ考えたり、言葉にしたり、行動に移す前にちょっと立ち止まってそれが倫理規範に悖っていないかをチェックするための1つのテスト（The Four-way Test）が示されています。そのテストのチェック項目は次の4項目です。今日は外国からの若い人たちもたくさん参加していらっしゃいますから、文章の中身の理解のためにも原文を添えて見てみましょう。

Of the things we think, say, or do	**言行はこれらに照らしてから**
1) Is it the Truth?	**1) 真実かどうか?**
2) Is it Fair to all concerned?	**2) みんなに公平か?**
3) Will it build Goodwill and Better Friendship?	**3) 好意と友情を深めるか?**
4) Will it be Beneficial to all concerned?	**4) みんなのためになるか　どうか?**

この項目に出てくる言葉の感覚もまた原文と翻訳文とで違うでしょう。ロータリーのidealであるserviceという文脈に照らしたとき、Truthというのはただ嘘をつきませんというのと違って、神とでも言うべき絶対者を前にしたときの真実で、foul 、falseではないという意味での真実です。

Fairもfoul の逆ですから、公平というのはちょっと違います。GoodwillもBenefitも宗教感覚と無縁の言葉ではありません。そう言えば、『手続要覧』に訳されている“職業”も原文では

professionであったりvocationであったりして、語源的には、生まれつき与えられた“天職”という意味合いを含んでいます。

それでは、日本の精神文化の中で生活しているわれわれとして、“奉仕”ということをどう捉えていけばよいのでしょうか。その手掛かりになるのが『手続要覧』に出ている「社会奉仕に関する1923年の声明」(いわゆる「決議23-34」)です。この一文は世界では不人気で一時は『手続要覧』から削除されそうになった代物です。わりと客観的に書かれていて日本のロータリーの伝統に沿って支持しやすい内容になっているので、それが日本のロータリーで重視される理由です。かなりの長文なので煮詰めてしまって芯だけを言うと、一人ひとりのロータリアンが、それぞれに奉仕の理念が人生の仕合せのほんとうの基礎であることを共に学んで自らを研鑽し、それを多くの人に広める実践を心がけようというものです。まず自分の人格と職業生活の質を高め合うことが本質で、多額の金を拠出してはなばなしく事業を立上げることなどその延長線上にはあるかもしれないけれど本来の姿ではないということです。

これでとりあえずはロータリーのリーダーシップがどこにあるかを解っていただけたとして、では皆さんが明日から職場や学業にもどってどのように皆さん自身のリーダーシップを実践していただけるのか。ヘイトスピーチとか土下座とかいじめとか君が代を歌っているかチェックせよとか、なにかしら柄の悪い世の中になってしまったように思えますがそうではなくて、だれもが人としての品位を高めて世界が品位あるものになれるよう、皆さんの活躍に期待いたします

Group report

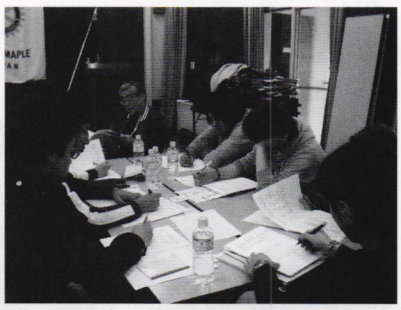
国際ロータリー第2660地区
千里メイプルロータリー・クラブ　**松田　親男**

学生、社会人、留学生、様々なバックグラウンドの青年達が3日間を共に過ごしました。

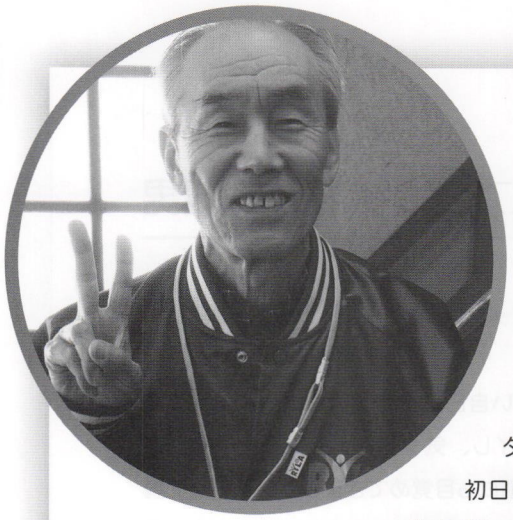
私もパパは初めての経験。ぎこちない自己紹介がすぐにニックネームで呼び合う仲になり、様々な課題にトライし、気づき、振り返る。トレーニングを積むうちに、集団の中での自分の役割にも目覚めてきました。そんな受講生の変化が手に取るようにわかり、ふと気がつくとパパの私も一人の受講生になっていました。連休の最中にもかかわらず、自己啓発しようという意欲を持ってライラに参加した受講生たちの姿勢そのものが、リーダーシップのさきがけであります。敬意を表したいと思います。ロータリアンの上司に勧められて参加した受講生の言葉が印象に残っています。「社長に行けと言われたから来たんですが、外国の人としゃべったり、同世代の人と本音で話をしたり、こんな経験初めてでした。参加して良かった」

私も参加して良かった。私自身が受講生たちに啓発された3日間でした。

A TEAM



Group report



国際ロータリー第2660地区
千里メイプルロータリー・クラブ
山下 聰一郎

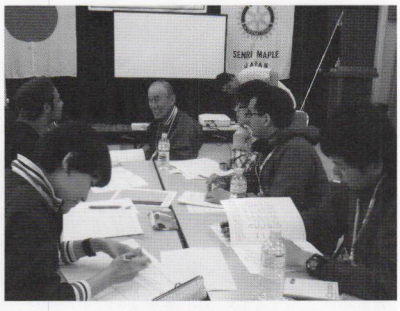
2013 年度春の RYLA を千里メイプル RC が主催することとなり、私もその一員として参加することになりました。

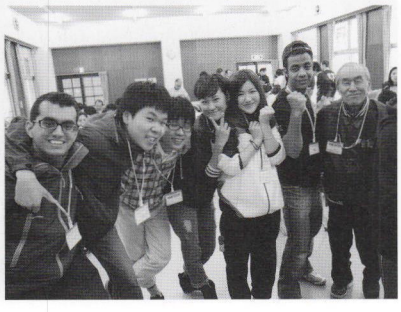
しかし、RYLA とはどの様な事をするのか全く知りませんし、ましてやロータリーパパなどという言葉を聞くのも初めてでした。

初日に六甲山 YMCA に集まってみて、またビックリ、世界各地から集まった若者がたくさんいたことに驚きを感じました。

これらの人々と室内ゲームを通して親しくなる事が出来たのは私の喜びでした。その中でもエジプトから留学している若者がとてもユニークな発想の持ち主で楽しい一時を過ごせました。翌日は野外研修で六甲山の緑の中を歩くゲームでした。宝探しのようなゲームで仲間と一緒に宝を探しながら歩くとそのグループの性格が出て面白かったです。

B TEAM





国際ロータリー第2660地区
千里メイプルロータリー・クラブ
水島　洋

木下 健治

例会でロータリーパパの指名をいただき、あまり何も考えずに「ロータリーパパの役割」のレジメを持ってライラに参加しました。

2日目のロータリーパパとの座談会は二時間の予定となっており、果たしてどんな二時間になるのかと若干の不安をもって座談会に臨みました。

自分の自己紹介と、ネットからピックアップした「リーダーの10ケ条」を話すことからスタートし、ロータリーへの入会の経緯や経歴を話しました。

私の担当したC班6名のうち、RACメンバーが2人とロータリアンが1名だったので、ロータリーのいろいろな話題を話すことができ、自然と時間が過ぎていきました。

3日目の講評の時にもお話しましたが、RYLAは「青少年指導者育成プログラム」であると同時に、青少年が初めてロータリーという言葉を聞き、ロータリアンや同世代のRACのメンバーと触れ合う機会であったと思いますので、今後彼らがロータリーについて関心を持ち、また何かの機会にロータリーと関わりを持っていただくことを願ってやみません。

C班の6名の皆さん、ロータリーパパとしてあまり何もできなかったですが、僕は皆さんから大いなる刺激を受け、学ばせてもらいました。「最近の若い子は、エライ！」ありがとう！

C TEAM

Group report

国際ロータリー第2660地区
千里メイプルロータリー・クラブ　水本　徹

7名の若者と過ごした3日間は、私にとっても大変有意義で素晴らしい時間でした。若者たちの未来へのしっかりした夢・目標を聞くにつれ、自分がこの年頃の時はどうであったか？考えさせられました。そして、少しでも夢に向かって遠回りしないように、アドバイスさせて頂いたつもりなのですが・・・。

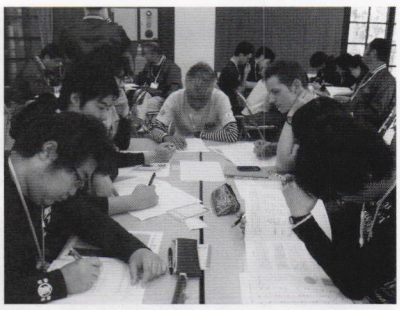
今、振り返ってみると「的確なアドバイスになっていたのか」「もっとこう言ってあげれば良かったかな」と反省しきりです。この「ライラ」での経験を若い受講生以上に自分のものとして生かしていこうと思っています。

D TEAM

国際ロータリー第2660地区　地区青少年活動委員
（吹田江坂ロータリー・クラブ）　**西本　健二**

子供の教育は100パーセント家内任せ、若手社員には俺について来れないなら、どうぞご自由に。こんな私にとって今回のロータリーパパは否応なく、若者たち一人一人をを正面から見て、そして正面から話し合う事が避けて通れない 3 日間であり、その事の大切さを学ばせていただいた 3 日間でした。普段は意識の低い私ではありますが、少なくともこの 3 日間は若者達に何かを得てもらおうと真剣に取り組みました。若者達の今後の人生においてきっと通じるものがあったと思います。最近娘に対して積極的に話しかけるようにしておりますが、そうすると結構話し相手になってくれる事が解りました。私にとりましても貴重な体験の 3 日間でありました。今後ロータリー活動や地域においての新世代への奉仕に生かしていきたいと思います。貴重な体験の場を与えていただいた事に感謝申し上げます。

E TEAM



Group report

国際ロータリー第2660地区
千里メイプルロータリー・クラブ　**黒川　彰夫**

素晴らしい7人の子供たちと知り合って、3日間を共にできたことは幸せだった。そして、ライラの神髄を垣間見たように思え、私自身の勉強にもなった。以下に7人を評価したい。

林　一也　君：落ち着いた寡黙な青年で、みんなの嫌がることでも黙々と行動した。

村田直輝　君：少年から脱皮しそうな青年で、信じられない体力の持ち主。特にアウトドア　アクティビティではすごい力を発揮していた。

Alexandria Jean Kephart さん：如何にもアメリカ人らしい高校生で、少しわがままだったが、最後のまとめの絵では素晴らしい力を示してくれた。

山田智子さん：人柄の良さから、人を上手くまとめるお姉さん役。皆からの信頼が強い。

陸　鑫一　君：雄弁で頭の回転の速い青年。しかも、友人思いで熱い心を持っている。

岩永隆寛　君：解析の速い研究者向きの青年。自分を強くは出さないが、アウトドアでの解析力は素晴らしかった。

Nastic Velico 君：仲間や人を大切にする青年であるが、緊急で帰宅した。しかし、彼は帰ってきてくれた。うれしかった。結果、チームの全員が心から喜び、絆が深くなった。

F TEAM

国際ロータリー第2660地区　地区青少年活動委員
（東大阪みどりロータリー・クラブ）　**井上　善博**

千里メイプルRC様のホストで、六甲YMCAで開催された春のRYLAは、大成功となりました。実行委員長はじめ、各担当ロータリアンの皆様やチームRYLA・ローターアクトの皆様のチームワークの賜物であることはまちがいありません。その中で、私共の仲間でもある古山会員の計らい（謀略？）により人生で二回目のロータリーパパを経験させて頂いたことは、貴重な経験でありました。外国籍二人、学生さん二人、社会人二人とバランスの取れた班で、様々なプログラムを共にこなし、勉強し、成長できたと思います。

一番の印象はやはりロータリーとの出会いや会員であることの意義をファイヤートークで聞かれた時です。感動したこと、良かったこと、辛かったこと等をありのまま伝えたのですが、全員神妙に聞いてくれました。何とか答えたものの、自分自身もっとロータリーで感動する体験・活動をやることによって、この子達により良いものを伝えることができるのだと実感しました。これからのローターリーライフに是非活かしたいです。ありがとうございました！

G TEAM

閉講式

会場：**六甲山YMCA　大ホール**

司会：国際ロータリー第2660地区 千里メイプルロータリー・クラブ　**藤田　芳浩**

■ 開会点鐘	国際ロータリー第2660地区 千里メイプルロータリー・クラブ　会長	**水本　徹**
■ 主宰者挨拶	国際ロータリー第2660地区 ガバナー・ノミニー	**泉　博朗**
■ 修了証書授与	国際ロータリー第2660地区 ガバナー・ノミニー	**泉　博朗**
■ 講評	国際ロータリー第2660地区 地区青少年活動委員会　委員長	**植田　昌克**
■ ローターアクトについて	国際ロータリー第2660地区 ローターアクト代表	**馬場　孝一**
■ ライラ旗の引き継ぎ 2013-2014年度秋のライラホストクラブ挨拶	国際ロータリー第2660地区 大阪フレンドロータリー・クラブ　会長	**高田　利美**
■ 閉会の辞	国際ロータリー第2660地区 千里メイプルロータリー・クラブ　会長	**水本　徹**
■ ロータリー・ソング "手に手つないで"		
■ 閉会点鐘	国際ロータリー第2660地区 千里メイプルロータリー・クラブ　会長	**水本　徹**

ガバナーノミニー挨拶

国際ロータリー第2660地区
ガバナーノミニー　泉　博朗

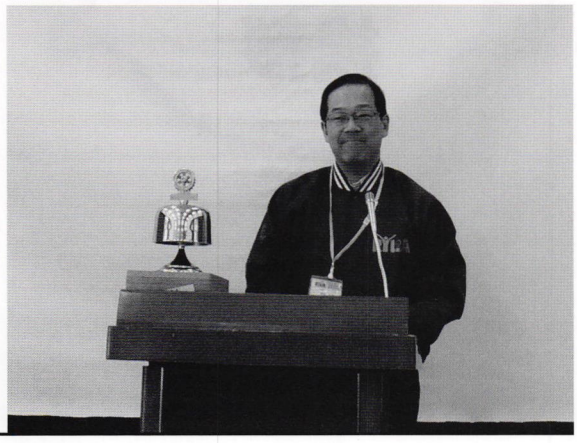
皆様こんにちは、2泊3日のライラお疲れ様でした。ライラは青少年指導者の養成プログラムであります。先ほど、皆様のグループ発表を聞かせていただき、その成果はあったと感じております。

皆様に申し上げたいことはたくさんありますが、一つだけと言うことになりますと、「一瞬の出会いが、人生を決める」そして、「新しい出会いが、また次の新しい出会いを作る」と言うことです。そのことについてはA班の発表でも取り上げていました。新しい出会いを作るためには、待っているだけでなく、出会いを作るための努力が必要です。それは学力であったり、教養であったり、品格であったり、今回学んだリーダーシップであったりするわけであります。顔を合わせたり、すれ違ったりは多くありますが、お互いに出会いとして感じるためには、それなりの状況が必要です。芳しい香りには蝶々が寄ってきます。それなりに人格をあげておかなければなりません。そのためには、集中するということが大事であります。例えば、この2泊3日のライラにおいて、集中して学ぼうとした人と、なんとなく過ごした人とは差が出ます。また、今まさにこの時に、今回学んだことを、休みが明けたら、学校や、職場で実践してみようと思っている人と、そうでない人とはやはり差ができるのであります。

私たちロータリアンは常に世界の平和と社会に貢献、奉仕することを考えています。その結果私たちの心も穏やかになり、ここにおられますロータリアンの皆様のように、優しく、穏やかな顔に成れるのです。そして、私たちには、ローターアクトクラブと言う、青少年育成のための組織を持っております。ちょうど皆様方の年代の集まりでありますので、よろしければお入りいただきたいと思います。また、今年の10月12日、13日、14日と上級ライラがあります。おそらくテント泊になると思います。私も昨年は参加させていただきました。その上級ライラを終了いたしますと、今回皆様のお世話をいたしました「チームライラ」に参加できることになります。彼らはこの「ライラ」の成果であります。どうぞ奮ってご参加下さい。

「チームライラ」の皆様、ご苦労様でありました。皆様の働きで無事今回のライラが終了できました。そして植田委員長はじめ地区青少年活動委員会の皆様有難うございました。そして最後になりましたが、水本会長、黒川実行委員長をはじめ、千里メープルロータリークラブの皆様、皆様方のおかげを持ちましてこのように成功裏に終えることが出来ました、こころより感謝申し上げます。

委員長講評



国際ロータリー第2660地区
青少年活動委員会 委員長
植田　昌克

皆さん、お疲れさまでした。
今回の春のライラはとても国際色豊かなライラとなりました。きっと、楽しい3日間を過ごされたことと思います。

I guess you could enjoy this RYLA.

一昨日、バスで到着した際のこわばった表情がまるで嘘のように、今は皆、充実感、達成感に溢れた顔をしています。

I'm very happy I can see smile on everybody's face.

幸い天候に恵まれ、新緑の眩しい、ここ六甲山YMCAで、春の初級ライラを無事執り行うことができましたこと、大変ありがたく思っております。

RYLAとはRotary Youth Leadership Awards青少年指導者養成プログラムのことです。ライラの期間中、何度も聞きましたね。若人に将来、良き指導者となって欲しいという願いをこめたロータリークラブのプログラムです。

今回のライラのテーマ 前半部分は、「きりひらこう自分の未来を！」です。

皆さんは若く、たくさんの可能性を備えています。ですが、その可能性もきっかけがなければ、あるいは努力をしなければ切り開くことはできません。

You are young and have so much potential, but if there's no chance to open or you don't try to open, it's impossible to bring out your ability.

テーマの後半部分は、「とびだそう仲間たちと！」です。

昨晩、ロータリーについて学びました。同じ意識を持つ我々ロータリアンは、週に一度、顔を合わせ、役割を分担して活動しています。

可能性を一杯備えた皆さんも、一人ではどうすることもできません。ロータリーの徽章に使われている歯車も、単独では何の働きもできません。相手の歯車が有って、噛み合って初めて機能するのです。仲間と手と手を携えて、力を合わせれば飛躍することができるのです。

今回のグループ活動は、まさにそのシミュレーションでした。役割を分担し、お互いの意見に耳を傾け、目標に向かって取り組みました。そして、そこにはアドバイザーとして、常に暖かく見守ってくれるロータリーパパの存在が有りました。

As you learned yesterday, the Rotary symbol is gear. Gear can't rotate by itself. It needs it's mate gear, and they have to engage.
Like this, you need good friends in order to jump up.

これからの日々の生活の中で困難にぶつかったら、是非、このライラで経験したことを思い出して下さい。鏡に向かって、whisky whiskyと言って笑顔を取り戻して下さい。悔しいことがあったら、四股を踏んで大声で「よいしょ！」と叫んでみて下さい。

解決策は一つではありません。問題に直面したら諦めず、皆で考えてみましょう。必ず、道は開けます。昨日のアウトドア・アクティビティはそれを教えてくれました。

今回の数多くの経験が、皆さんの人生において飛躍の糸口となりますことを心より期待しています。

If you have some trouble, please say "Yoisho" loudly.
The solution is not one. There must be another solution, but you have to think how to solve with friends.
I think that yesterday's outdoor activity program showed it to you.

最後になりましたが、黒川実行委員長のもと、メンバー一丸となってこの春のライラの準備、進行をして下さいました千里メイプルロータリークラブの皆様に心より御礼申し上げます。また、同じく長期間に渡り、チーム一丸となって、ライラの準備、運営をして下さいましたチームライラの皆様に厚く御礼申し上げます。

次回は秋の上級ライラが大阪フレンドロータリークラブ様のホストで開催されます。対象者は初級ライラ修了者ですから、皆さん、受講することができます。是非、ご参加下さい。
どうもありがとうございました。

Thank you very much.
I'm looking forward to seeing you again.

閉講の辞

国際ロータリー第2660地区
千里メイプルロータリー・クラブ 会長 **水本　徹**

皆様、3日間お疲れ様でした。いよいよ、2012-13年度第2660地区「春の初級ライラ」がここに閉講を迎えます。

閉講に際し、ガバナーノミニー泉　博朗 様にご挨拶、並びに地区青少年活動委員長　植田昌克 様にご講評を賜り厚く御礼申し上げます。

私たち千里メイプルロータリークラブが「ライラ」という、この大きなイベントを無事に勉める事が出来ましたのも、ひとえに高島　凱夫ガバナー、地区青少年活動委員会の皆様、そして第2660地区ロータリークラブの皆様の温かいご支援・ご協力の賜物と、改めて御礼申し上げます。

また、「ライラ」の開催に当たりましては、半年前からプログラムの企画・運営に絶大なるご協力を頂きました「チームライラ」の皆様、本当に言葉では言い表せないほど感謝いたしております。

「ありがとうございました」

そして、大切なゴールデンウィークの3日間を費やしご参加頂きました受講生の皆様。

この度の

「きりひらこう自分の未来を！

とびだそう仲間たちと！」

のテーマで行われました「ロータリー青少年指導者養成プログラムRYLA」は如何でしたか？

皆さんが、将来指導者の立場になられる中で、この研修が少しでもお役に立てたらと願っております。

今回ライラに参加したことで、3日前まで全く知らなかった新しい仲間、ロータリーパパをはじめロータリアンの諸先輩方との出会いを、皆さんの人生における大きな宝にしてください。そして、これからも「秋のライラ」をはじめ、幾度となく訪れるであろう新しい出会いという「ご縁」を大切にして、一人でも多くの仲間たちと素晴らしい未来に向かって人生を送って頂けますよう、心から祈念致し、簡単ではありますが閉講のご挨拶とさせて頂きます。

「皆様、
本当にお疲れさまでした。

そして、
ありがとうございました。」

PHOTO REPORT 5/3

PHOTO REPORT 5/4

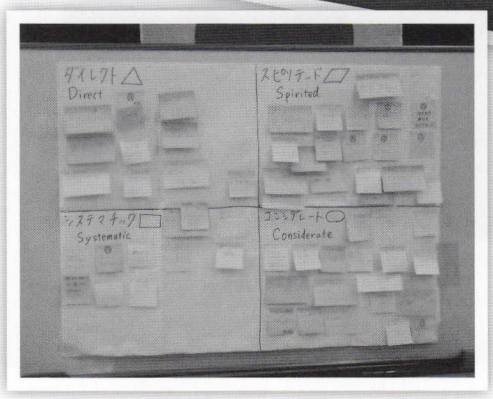


PHOTO REPORT 5/5

RYLA クラブ別登録会員数・受講者数一覧表

IM	クラブ名	ﾛｰﾀﾘｱﾝ登録数	初級受講生数
IM①	池田	3	0
	池田くれは	3	0
	箕面	25	3
	箕面千里中央	3	0
	豊中	3	0
	豊中南	3	0
	豊中－大阪国際空港	3	0
	豊中千里	3	0
	小計	46	3
IM②	茨木	13	2
	茨木東	19.5	0
	茨木西	15	1
	千里	30	0
	千里メイプル	22	15
	摂津	20	0
	吹田	30	0
	吹田江坂	18	0
	吹田西	24	2
	高槻	25	0
	高槻東	18	1
	高槻西	10	0
	小計	244.5	21
IM③	大東	0	1
	大東中央	27	0
	枚方	5	0
	門真	3	0
	交野	1	0
	香里園	3	0
	くずは	3	0
	守口	3	0
	守口イブニング	3	0
	寝屋川	3	0
	四条畷	3	0
	小計	54	1
IM④	東大阪	3	1
	東大阪中央	3	0
	東大阪東	3	1
	東大阪みどり	10	0
	東大阪西	0	0
	大阪柏原	0	0
	大阪ネクスト	0	0
	八尾	1	1
	八尾中央	3	0
	八尾東	3	0
	小計	26	3

IM	クラブ名	ﾛｰﾀﾘｱﾝ登録数	初級受講生数
IM⑤	大阪中央	7	0
	大阪堂島	3	0
	大阪北	5	2
	大阪北梅田	3	1
	大阪西	3	0
	大阪大淀	4	0
	大阪リバーサイド	3	0
	大阪西北	3	0
	大阪そねざき	6	0
	大阪梅田	4	0
	大阪梅田東	3	0
	大阪ユニバーサルシティ	2	0
	小計	46	3
IM⑥	大阪	4	0
	大阪東	3	1
	大阪東淀ちゃやまち	3	2
	大阪城東	1	0
	大阪中之島	5	0
	大阪大手前	3	0
	大阪城北	4	2
	大阪天満橋	4	2
	大阪鶴見	3	0
	大阪－淀川	4	0
	新大阪	3	0
	小計	37	7
IM⑦	大阪フレンド	6	0
	大阪本町	3	0
	大阪御堂筋	3	3
	大阪南	3	1
	大阪難波	3	1
	大阪なにわ	3	0
	大阪南西	1	0
	大阪西南	3	1
	大阪船場	3	0
	大阪心斎橋	3	0
	大阪うつぼ	3	3
	小計	34	9
IM⑧	大阪平野	3	1
	大阪イブニング	3	0
	大阪城南	5	1
	大阪咲洲	3	0
	大阪天王寺	3	2
	大阪帝塚山	3	0
	大阪東南	5	0
	大阪アーバン	0	0
	小計	25	4
合計		512.5	51

RYLA 2013年 春のライラ 収支決算報告

収　入	明　細	単　価	数　量	金　額
地区補助金				1,500,000
ロータリアン登録料		6,000	512.5	3,075,000
青少年登録料		8,000	51	408,000
合　計				4,983,000

収　入	明　細	単　価	数　量	金　額
基調講演	辻川　登　氏(宿泊・交通費経費込)	541,580	1	541,580
六甲山YMCA	宿泊施設代			698,600
	食事代			731,100
	研修施設利用代他			269,430
送迎バス	JR六甲道⇔六甲山YMCA@3台利用	21,000	6	126,000
印刷	チラシ・ハンドブック等			519,750
	報告書			400,000
傷害保険	受講生、宿泊ロータリアン	614	85	52,190
備品	Tシャツ・ブルゾン・名札等			640,165
事務経費	通信料・雑費・振込手数料等			48,793
	会議費(打合せ・反省会)			158,650
	PRメイクアップ		28クラブ	334,600
青少年委員会活動費	チームライラ交通費			75,242
	チームライラプログラム教材			186,900
	国際ライラ活動補助金			200,000
合　計				4,983,000

■ **主　宰**
国際ロータリー第2660地区
ガバナー　高島　凱夫

■ **主　管**
国際ロータリー第2660地区
青少年活動委員会

■ **ホスト**
国際ロータリー第2660地区
千里メイプルロータリー・クラブ

■ **プログラム運営**
国際ロータリー第2660地区
千里メイプルロータリー・クラブ

国際ロータリー第2660地区
チーム・ライラ

千里メイプル　ロータリー・クラブ

〒565-0826 吹田市千里万博公園1-5 ホテル阪急エキスポパーク 306号室
TEL.06-6816-7077　FAX.06-6816-7073
E-mail maplerc@lime.ocn.ne.jp